

舞台芸術ワーキンググループ論点（案）

1. 舞台芸術の振興方策について

（論点例）

- 頂点の伸張と裾野を拡大するための支援の方策とそれぞれの役割について
- 支援にかかる目標をどう設定し、その成果の測定と評価をどのように実施するのか。
- 効率的・効果的な支援手法はどのようなものか。
- 次代を担う子どもたちの文化芸術体験の機会を一層拡大・充実するためにはどのような取り組みが必要か。
- 地方独自の取組について促す仕組みをどうするのか。

2. 支援の在り方について

（論点例）

- 音楽（オペラ、オーケストラなど）、舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）、演劇、大衆芸能など分野の特性に対応した支援をどのように考えるのか。
- オペラ、バレエなど長い時間稽古を経て公演を迎える「先行投資型」、オーケストラ、大衆芸能など完成された作品を習得した演者が公演する「人材活用型」など公演制作形態に対応した支援をどのように考えるのか。
- 芸術団体の職員が自らマネジメントするなど企画能力の高い団体を育成していくことをどのように考えるのか。
- 個々の公演支援とは別に、従来のいわゆる団体支援とは異なり、団体の定期公演など年間の活動を総合的に支援する特別な支援の枠組をどのように考えるのか。その際、芸術創造活動特別推進事業、国際芸術交流支援事業、人材育成支援事業をどのようにマッチングしていくのか。
- 民間資金を一層活用するマッチング・グラントのような助成の仕組みの導入をどのように図るか。
- 舞台芸術の公演に対する助成をより効果的に実施するための体制についてどのように考えるか（例えば、プログラムオフィサーを置いたアーツカウンシルのような組織を設けることについてどのように考えるか）。

3. 芸術拠点の形成について

(論点例)

- 地域により優れた舞台芸術に触れる機会に著しい格差があり、この格差を少なくするためには、自ら創造・発信できる劇場・音楽堂が各地域にあることが望まれるが、どのような施策が必要か。
- 地域の劇場・音楽堂が優れた舞台芸術の創造・発信が行えるようになるためには、芸術監督やアートマネジメント人材、専門的知識を有した舞台技術者等、優れた人材が必要不可欠であるが、人材の育成や配置等について、国がどのような支援を行っていくべきか。
- 劇場・音楽堂について法的根拠を設け、一定の要件を満たす劇場・音楽堂に対して公的な支援を実施するような仕組みの必要性についてどのように考えるか。
- 劇場・音楽堂が地域住民や芸術家の意向を反映したり、企業等の支援を受けながら運営の充実に資するような支援はどのように行うべきか。

4. 人材の育成について

(論点例)

- それぞれの分野における人材育成に対する効果的な支援策について
- 新進芸術家海外研修制度の研修修了者の成果の検証方法及び今後の研修制度はどのようにあるべきか。
- 新進芸術家海外研修制度の研修修了生など、新進若手芸術家の活躍の機会をどのように確保するか。
- 新国立劇場の各研修所を今後どのように充実していくべきか。
- それぞれの分野の人材育成において、学校教育からの継続性をどのように確保するのか。

5. 海外への発信について

(論点例)

- 効果的な舞台芸術の海外発信はどのようにしたらよいか。
- 計画的でレベルの高い公演を海外で行うための支援方策とは。
- 芸術団体間の国際的相互交流を推進するためにはどのような支援策が有効か。